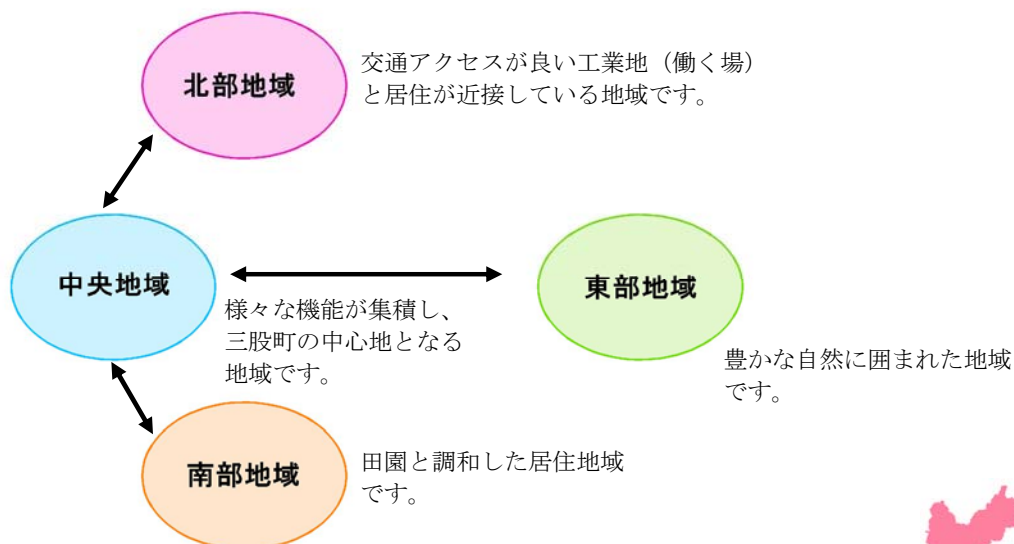
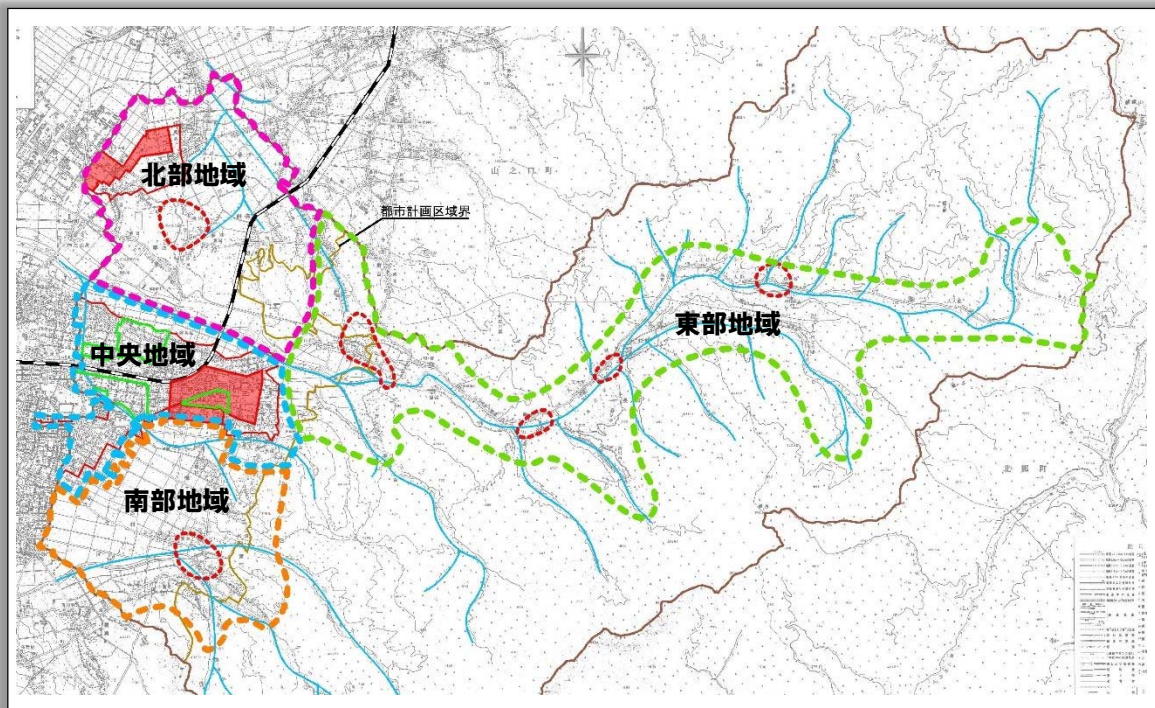


第4章 地域ごとの取り組み等

1. 各地域の特徴と重点的な取り組み

ここでは、本町を4つの地域に分けて、各地域の特徴や重点的に取り組む必要がある事ごらを整理します。

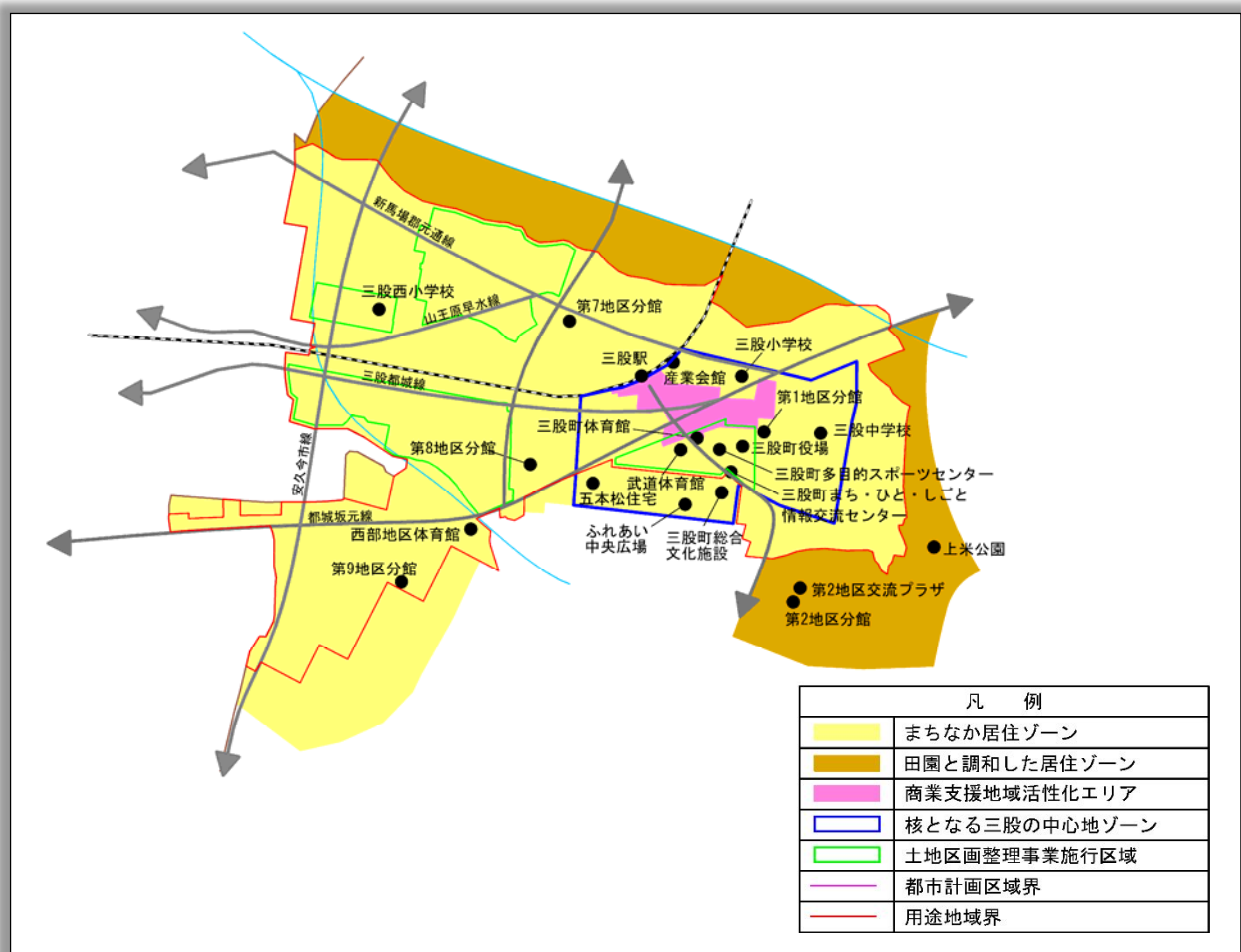
第3章で述べた都市整備の方針を各地域に落とし込み、それぞれの地域が持つ強みや課題を明確にします。また、整備の方針に位置づけていないものの、将来的な地域づくりを見据えたときに重要な要素となる可能性を持つものも含め、幅広い視点で地域の魅力の源を見出します。



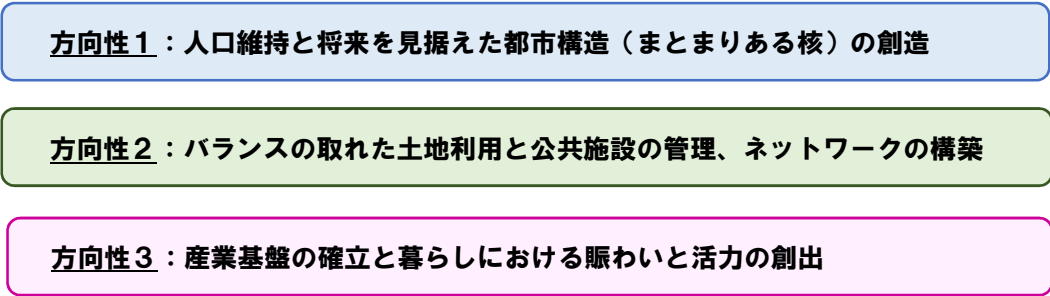
【中央地域】

この地域は「核となる三股の中心地ゾーン」と、その周辺を取り囲む「まちなか居住ゾーン」から形成され、東端には交流拠点である「上米公園」が位置しています。まちの人口のおよそ6割がこの地域に集中していますが、西側では今なお人口の増加が進む反面、「核となる三股の中心地ゾーン」をはじめとする古くからの町の中心部では、高齢化の進展や人口減少傾向も見られ始めるなど、二面性を持つ地域でもあります。快適な住環境整備を継続することで人口増加を下支えし、人口減少に対しては中心地の賑わい再生に取り組みながら、吸引力の回復を図ります。

また、この地域における重要な検討課題の一つに公営住宅の跡地活用があります。特に五本松住宅はおよそ2haの敷地面積があり、立地条件にも恵まれていることから、将来の町の発展を大きく左右するさまざまな可能性を秘めています。今後は、都市機能の集積を見据えた跡地活用の方向性を検討すると同時に、実現の為に必要となる土地利用規制についても十分検討を重ね、三股町の新たな拠点となるような施設整備を目指します。



【「第2章 都市計画・まちづくりの課題と将来の都市像」で整理した3つの方向性との関連】



[特徴的・重点的な取り組み]

〈核となる三股の中心地ゾーン〉

- [商業支援] 商業支援地域活性化エリア（近隣商業地域）における開業支援
 - [雇用創出] コワーキングスペース（あつまい）を拠点とした若者や女性の雇用創出に向けた就労支援、多様な働き方の実現・支援
 - [地域活性化等] 公営住宅跡地の活用（民間資金の活用も視野に入れた事業手法による地域活性化や福祉・健康等の機能追加）
 - [アスリートタウン] テニスコートの増設
- [福祉充実] 中央地域に拠点を置いたフードバンクの取り組みの検討・導入

〈まちなか居住ゾーン〉

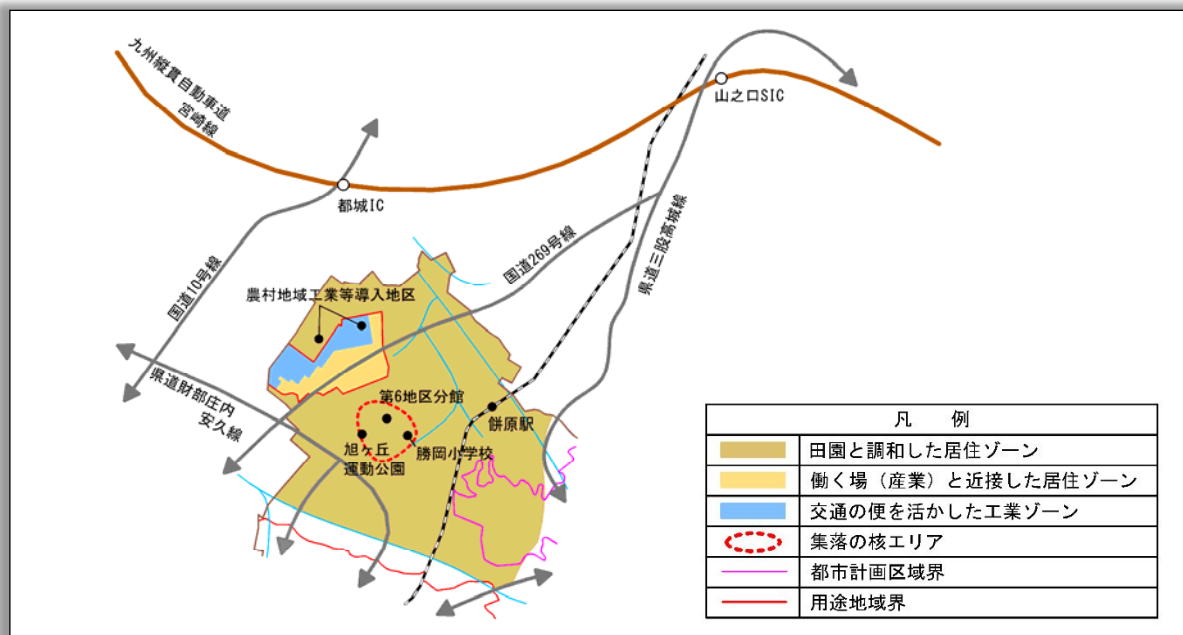
- [人口増] 既存ストックや遊休地の有効活用
（空き家の活用や土地区画整理事業施行地区における遊休地の活用）
 - [住環境] 住環境向上の取り組み（排水に関する取り組み等）
良好な住環境を形成するための用途地域の見直し、特定用途制限地域等の検討
- [住環境] 用途地域未指定エリアでの土地利用規制の検討・導入
- [公共施設管理] 町営住宅の集約・建て替え



【北部地域】

この地域は「交通の便を活かした工業ゾーン」と「働く場と近接した居住ゾーン」、その周辺を取り囲む「田園と調和した居住ゾーン」から形成され、中心付近には交流拠点である「旭ヶ丘運動公園」が位置しています。また「旭ヶ丘運動公園」「第6地区分館」「勝岡小学校」を含むエリアを「集落の核」とし、地域づくりの拠点に位置付けています。なかでも「旭ヶ丘運動公園」については「アスリートタウンみまた」の更なる飛躍を目指し、陸上競技場の改修を行います。交流拠点及びスポーツ振興の拠点として「旭ヶ丘運動公園」の機能強化を図り、健康で元気に暮らせるまちづくりを、この地域から発信します。

また本地域は近年人口の増加が著しく、急速な宅地化に対応した施設整備の必要性が高まっています。高速道路ICへのアクセス性の良さを活かし、広域連携軸に位置付けた国道269号線沿線の今後の発展も視野に入れながら、働く場の核の形成を目指した工業地域の拡充を図ることで、この地域の潜在能力を引き出す取り組みを進めます。



【「第2章 都市計画・まちづくりの課題と将来の都市像」で整理した3つの方向性との関連】

方向性1：人口維持と将来を見据えた都市構造（まとまりある核）の創造

方向性2：バランスの取れた土地利用と公共施設の管理、ネットワークの構築

方向性3：産業基盤の確立と暮らしにおける賑わいと活力の創出

[特徴的・重点的な取り組み]

〈交通の便を活かした工業ゾーン〉

- [雇用創出] 企業誘致の受け皿・若者を中心とした雇用の場の確保として、農村地域工業等導入地区の見直しや工業系用途の指定

〈働く場（産業）と近接した居住ゾーン〉

- [住環境] 良好な住環境の確保
(立地企業に対する継続的な住環境への配慮の指導、排水対策)
- [人口増] 既存ストックや遊休地の有効活用（空き家の活用等）

〈田園と調和した居住ゾーン〉

- [地域活性化] 用途地域外に位置する集落の核を維持・活性化する取り組みの支援等
- [なりわい] 六次産業化による販売力の強化等と連携した農業などのなりわい支援
- [アスリートタウン] 旭ヶ丘運動公園（陸上競技場）の改修整備

- [住環境] 用途地域未指定エリアでの土地利用規制の検討・導入

- [住環境] 農村集落の住環境向上の取り組み
(排水に関する対策、無秩序な開発の規制等)
- [人口増] 田園地域での移住・定住促進施策の推進
(全町的な移住・定住施策との連携)

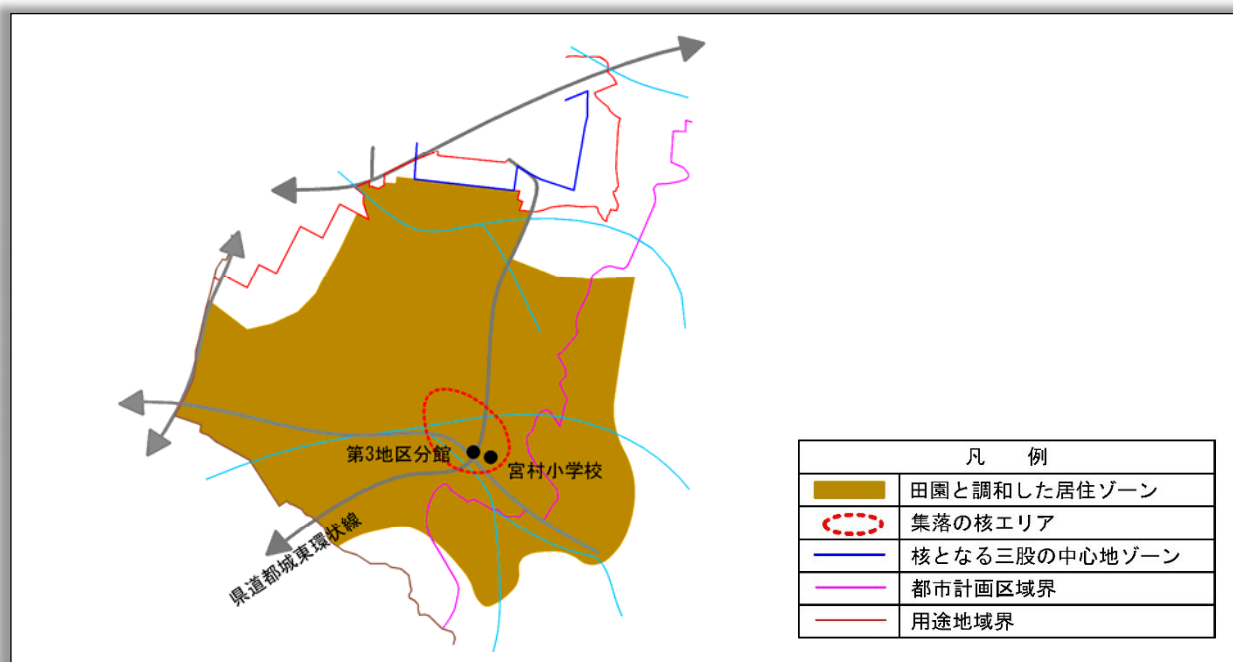


【南部地域】

この地域は「田園と調和した居住ゾーン」に位置付けており、中央部に広がる農用地の周囲を東から南にかけて既存集落が取り囲んでいます。人口は減少傾向にありますが、定住人口の増加を目的とした宮村地区宅地分譲事業や過疎奨励金制度が一定の成果をあげるなど、既存集落の維持に積極的に取り組んだモデル的地域ともいえます。

また、この地域は農業系土地利用が主であるものの、国道222号線沿線においては工業系土地利用も見られ、北部地域が持つアクセス性とは異なり、都城志布志道路や東九州自動車道など南方面へのアクセス性が強みでもあります。

雄大な霧島を背に広がるこの地域の美しい田園風景は、わがまちの原風景ともいえる重要な景観です。集落の維持・活性化に継続的に取り組み、国道222号線を軸とした新しい可能性も視野に入れつつ、魅力ある地域づくりを進めます。



【「第2章 都市計画・まちづくりの課題と将来の都市像」で整理した3つの方向性との関連】

方向性1：人口維持と将来を見据えた都市構造（まとまりある核）の創造

方向性3：産業基盤の確立と暮らしにおける賑わいと活力の創出

【特徴的・重点的な取り組み】

〈田園と調和した居住ゾーン〉

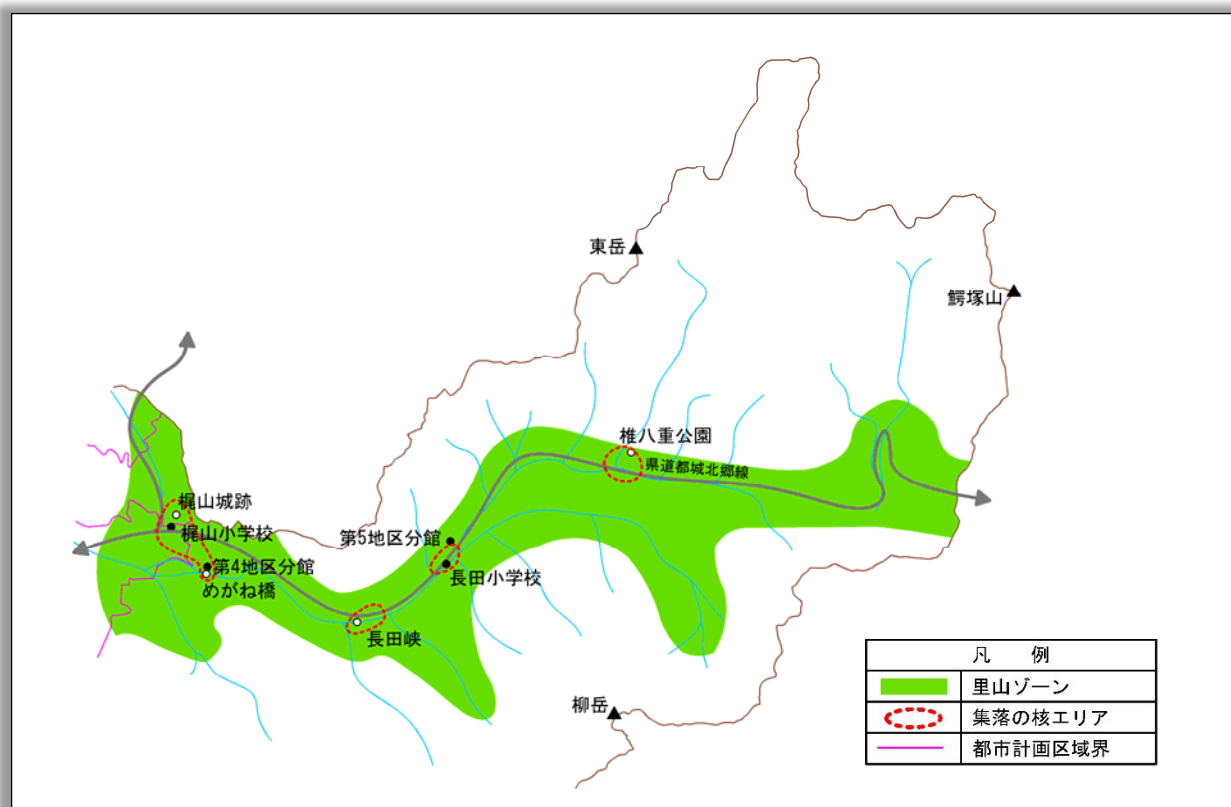
- [地域活性化] 集落の核を維持・活性化する取り組みの支援等
- [なりわい] 六次産業化による販売力の強化等と連携した農業などのなりわい支援

- [人口増] 地域、集落の維持活性化を目的とした宅地分譲の検討・実施
- [人口増] 田園地域での移住・定住促進施策の推進
(全町的な移住・定住施策との連携、三股町過疎地域定住促進奨励金制度の実施)
- [住環境] 農村集落の住環境向上の取り組み
(住環境向上のための整備、無秩序な開発の規制等)

【東部地域】

この地域は「里山ゾーン」に位置付けており、地域内を東から西に流れる沖水川はわにつか自然公園に指定されるなど、美しい自然環境と共生する地域です。人口は減少傾向ですが、過疎奨励金などの定住人口増加の取り組みのほか交流人口の増加にも力を入れ、定住にとどまらない集落の維持・活性化の実現を目指します。

また、この地域は「めがね橋」「長田峡」「椎八重公園」など優れた観光資源に恵まれています。さらには文化財としての保護に取り組んでいる「梶山城跡」もあります。この地域のみならず町全体の活性化に向けて、積極的な活用を期待が高まっています。



【「第2章 都市計画・まちづくりの課題と将来の都市像」で整理した3つの方向性との関連】

方向性1：人口維持と将来を見据えた都市構造（まとまりある核）の創造

方向性3：産業基盤の確立と暮らしにおける賑わいと活力の創出

【特徴的・重点的な取り組み】

〈里山ゾーン〉

- [地域活性化] 集落の核を維持・活性化する取り組みの支援等
- [地域活性化] 地域おこし協力隊や高等教育機関などとも連携した新たな地域の魅力発見
- [なりわい] 六次産業化による販売力の強化等と連携した農業・林業などのなりわい支援
- [なりわい] 環境保全協定を活かした計画的な森林環境保全の展開
- [観光] アトリエロードや鰐塚県立自然公園等の地域資源を活用した観光・産業の活性化/観光ネットワークの強化
(長田峡を中心としたウォーキングコースの活用、東部地域の観光道路を活かした、みまたん霧島パノラママラソンの継続開催)
- [地域文化] 地域に根差した工芸の育成・振興
- [地域交流] 学校施設（教室など）の地域住民への開放などによる地域交流の支援

- [人口増] 里山地域での移住・定住促進施策の推進
(全町的な移住・定住施策との連携、三股町過疎地域定住促進奨励金制度の実施)
- [住環境] 集落の住環境向上の取り組み（住環境向上のための整備等）



2. わがまちみまたのまちづくりの実現に向けて

本計画のキャッチフレーズ『つづく、つながる、つみあげる ～わがまちみまたのまちづくり～』（p60）、本計画で目指す将来像『自立と協働で創る元気なまち 三股』（p62）を実現していくために、この計画で掲げている取り組みを計画的に実施していきます。

ただし、この取り組みにはキャッチフレーズ・将来像に「わがまち」「自立」「協働」といったキーワードがあるように、行政のみならず町民・事業者との協働に留意するとともに、その成果などを確認・共有していくことが重要だといえます。

本計画は今後、PDCAサイクルに基づく、計画の実行、評価の見直しを進めていきますが、この協働という視点を大切にしながら『わがまちみまたのまちづくり』をつみあげていくことに努めます。

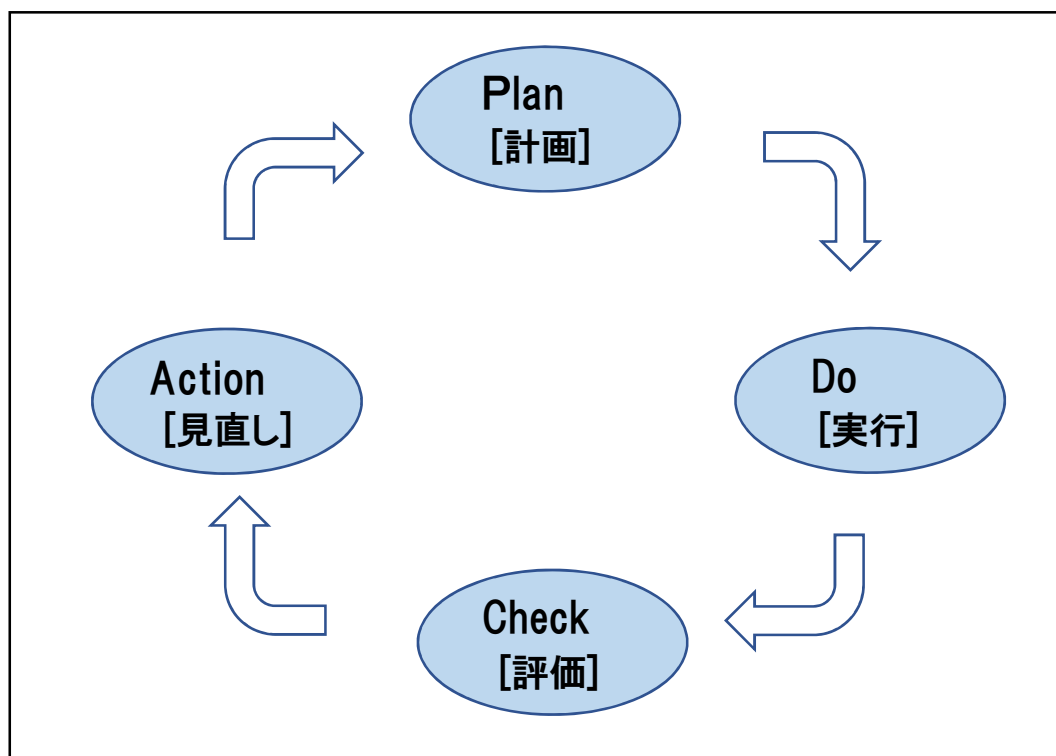


図-4-1 PDCAサイクル